



民主主義への道 12

理事長 千葉忠夫

・「チバ、10万円で遊び場を作り替えて」

私が知的障がい児の施設に勤務していた1970年代の後半は、障がい者関係の施設はすべて国立であった。デンマークで施設の地方分権が実施されたのは1980年から1985年の間で、以前国の管理下にあった施設がすべて県の管轄になったのである。現在デンマークは世界で一番地方分権の進んだ国であると言われているが、当時私は国立施設で勤務していても、その土台になるような職場の雰囲気は十分感じ取れた。職場の上司は仕事の指示をすると、あとは職員の好きなようにさせてくれる。たとえば、施設長は私に、園の遊び場は10年以上古いからと「10万円の予算内で遊び場をチバが好きなように作り替えても良い」とあっさりいうので最初は半信半疑であったものだ。

「勝手に作り替えて良いのですか？」

「ああいいよ。子供たちが喜ぶようなものを作ってくれ」

当然大体の案を図形で示し、一応許可をもらうわけだが、こちらの方はあまり重視していない。職員を信用して予算も付けて仕事を任すという分権政策の基本を感じたものだ。

・施設ごとに予算執行を任される。余れば次年度に繰り越す

現在デンマークでは保育園、幼稚園、学校、障がい者施設、高齢者センターなど、すべて各自治体の管轄下にあるが、運営は年間予算付きでそれぞれの施設の理事会に任せられ、施設長が運営の実施の責任者となる。このように予算付きで権限を任せられると経済効率も大変よくなる結果となった。各施設は任せられた予算内で節約し、会計年度末に予算が余ると次期会計年度に繰り越してもよいことになっているので、年度末の空出張や無駄な買い物をする事もない。

・自分が作ったブランコで子供がケガ

遊び場作りを任されているいろいろなものを作った。しかし自分が作ったブランコで事故を起こしてしまった。大型トラクターのタイヤをチェーンで吊って子供たちが数人乗れるブランコを作っ

た。そのブランコに子供たちと一緒に乗っていたとき、一人の女の子がピョンと飛び降りてしまい、振り子のように戻ってきたブランコがその女の子の足を直撃してしまった。私は他の子供たちと反対側に乗っていたので、女の子が飛び降りるのを防ぐことができなかった。急いでブランコを止め、女の子のそばに行くと明らかに骨折していた。

私は事務所に飛び込み、救急車を呼んだ。救急隊員が駆けつけるまで女の子のそばにつき、動かないようにさせた。この女の子は絶えずピョコピョコ動きまわる子で、一時たりともジッとしていない子だからである。女の子が救急車で運ばれた後、私は施設長に事故の報告をした。子供に申し訳ない、子供の親に申し訳ない、施設長に申し訳ない、首を覚悟での事故報告をしたが、施設長は「これは不可抗力の事故で、チバに個人的責任はない」と言ったのだが、私は女の子の親に会わず顔がないと思い、心痛でいっぱいであった。入院先の病院で親御さんに自分の不注意でお子さんにけがをさせたことを詫言じた。親御さんからさぞ叱責させるだろうことを覚悟していた。すると、「チバが悪いのではない。うちの娘が勝手に飛び降りたのが悪いんだよ。そんなに気にしなくてもいいよ」と親御さんが言ってくれた。この言葉を聞いたとき、もしこれが日本で起こした事故であったら、どんなに個人責任を追究されるだろうか、と考えた。デンマークでは職場で起きた不可抗力の事故に対して個人的にそして社会的に責任を負わさないことを知ったのである。

・生後3ヵ月の我が子の洗礼に反対

当時の私たちの生活パターンは、私が職場から帰ると、妻は近所の病院にパートタイムの働きに出た。ようするに長男を代わりばんこに面倒を見たのである。2年後の1978年に長女が誕生した。息子も娘もデンマークと日本のどちらも通用する名前をと考え、「KEN、健」と「JUN、純」と名づけた。約80%ものデンマーク人が属する国教がプロテスタントのルーテル派であるので、デンマーク人の子供は普通生後3ヵ月以内に洗礼を受ける習慣があるが、私たちの子供たちはいずれも洗礼を受けていない。妻は子供たちに洗礼を受けさせたかったかもしれないが、生後3ヵ月くらいで宗教のことも何も知らない者に洗礼を受けさせるのに私が反対したからである。子供たちが大きくなって自ら宗教を選ぶのであれば私は反対しない。

・お金 が 動機 で 非行 少年 施設 に 応募

知的障がい児の入所施設で3年勤めると、この分野の福祉政策が大体把握できた。子供も二人となり、アパートの狭さを感じ始めてきたのもこの頃だったので、日曜日になると新聞を買い求め、何かめばしい仕事はないかと求人欄を注意深く見るようにした。すると県立教護院で主任生活指導員を募集しているのが目に付いた。

「非行青少年教護施設主任生活指導員を求む。ソーシャルワーカー有資格者、30才以上社会福祉施設勤務経験3年以上。給与、月額15000kr(クローネ)」

一番魅力を感じたのは給料であった。当時1krは25円くらいだったので、これだけもらえばローンをして家を買えると思ったからだ。しかし、職務内容からして難しそうだし、経験もあまりないし、まして私は外国人だからダメだろうと最初からあきらめ、ささやかな望みを託し、必要書類を付けて願書を出したのだ。

すると、案に反して、「X月X日面接するので出頭すること」と手紙が送られてきた。うれしい気持ちはもちろんあったが、困ったという気持ちの方も大きかった。未知の世界の未知の仕事が不安だったからである。しかし、面接日を通知してきたからには相手も私に多少は興味を持ったのであろうと理解し、採用されなくてもともと面接試験に出かけていった。この教護院の新職員採用委員会は所長、生活指導員寮長、生活指導員、そして嫌だなあと考えた職員が一人いた。その職員は教護院の臨床心理判定員だったからで、私は彼になんでも心のうちを見抜かれてしまうという恐怖感を持ったのだ。

・「非行少年に武士道を」と面接で答える

「貴兄はなぜこの職を希望したのか?」「非行青少年を更正させたいと思っているからです」「どんな生活指導をして更正させるのですか?」「柔道を教えます」「暴力沙汰を起こしている者が多い彼らに柔道を教える?」「はい。暴力を教えるのではなく武士道を教えるのです」「武士道?」「彼らは自分が弱いから暴力を振るうのです。彼らを鍛えて強くすれば(健全な精神は健全な肉体に宿る)とデンマーク語でも諺があります」「貴兄のデンマーク語のアクセントで少年たちが分からなかったらどうする?」「分かるまで何度でも繰り返して話します」「彼らはイライラするがどうする?」「話し続けるより他ありません。彼らが分かってくれるまで」約1時間くらいの中にこのような質問のほかに、日本で何をしていたかとか、何のためにデンマークに来たのかなどといろいろ聞かれた。もうこれは駄目だと思ったから聞かれもしな

いに「この仕事に就ければ家を買えると思って」と言って退いたら気分もスッキリした。また、週末に新聞を買おう。家に帰ると2才と1才の子供が所狭しと遊びまわっていた。「どうだった?」と妻。「また新聞買うよ」「そォ」会話は続かなかった。

35才を過ぎててもいまだに家も買えないと情けない気もしたが、これだけは自分で決めるわけにはいかないのだから仕様が無い。今の職場には他の職場の試験を受けたことは当然秘密であるので、いつもの通り勤務を続けていたら所長に呼ばれた。

「残念ながらおめでとう」「はーア???なんのことでしょうか」「秘密にしなくてもいいんだ、教護院の所長から君のことを聞かれて私なりの意見を言っておいたのだ」しまった!と狼狽したが、「うちの施設としては君に去られるのは残念だが君の将来にとっては良いことだ。行きたまえ」私はなんて良いデンマーク人ばかり会うのだろうと感動した。

家に帰って、「先週の新聞は?」「求人欄はないわよ」「いや、求人欄ではなくて、土地家屋事情の欄があればいい」「ン?」「家を買おう!」「えエー、お金もないのに…」この日の夕食は「お頭付き」。ヘルシンガーの町は魚も新鮮、安いワインを飲みながらの夕食を二人の幼子たちはなぜか知る由もなかった。肉よりも高い魚やご飯をぼろぼろこぼしながら美味しく食べていた。

・念願の家を買う。1000平方メートルの土地に135平方メートルの平屋

今の職場の同僚たちからも祝福されながら、最後の一月を申し送り事項を整理するのに費やした。足を折った女の子の親も含め、子供たちの親からも惜しまれて辞めて行く自分を知るときはうれしいような寂しいような複雑な気持であった。引越しまで一月、「蚤の市」で買った鍋、釜、家財道具の梱包が始まった。子供たちはなぜいろいろなものが梱包されていくのか、ときには自分たちのおもちゃまでもが梱包されてしまうので不安げな顔をしていた。引越す前に買う家を下見し書類をそろえた。敷金は銀行がこれから私が得る給料を確認して貸してくれた。もちろん連帯保証人が2人必要であったが、一人は妻の父、そしてもう一人は養豚農家の農場主のポールが引き受けてくれた。二人とも銀行と同様に私の給料を知っているのだからよく保証人になってくれた。初めて買う住宅は1000平方メートルの敷地に建てられた135平方メートルの平屋であった。ローンで買うと直接税の課税率が低くなる特典があることも知った。

この手記は月刊「権利闘争」(権利問題研究会発行)にて連載されたものです。転載の許可をいただきました関係者の方々に感謝いたします。

～Weekend Folkehøjskole in Kochi
第9回研修塾 in 高知 の報告(2)

今回は参加者アンケートに寄せられた感想と疑問を紹介します。編集上の都合でフォドさんの講演内容の紹介は次号に掲載します。

1. エヴァ スヴェンセンさんの話のサブテーマ、専門教育が必要な理由について、時間が無くなって話が聞けませんでした、その辺のところをもっと知りたいと思いました。(女性 60)

会員の方であれば前回同封した講演予定稿で大体お分かりいただけただけのことと思います。

2. 子供の頃から個人の自由と責任、社会性というものを、教えるのではなく、導くという接し方、とても素晴らしい事と思いました。・介護職員は誇りを持ってやっている、ダークなイメージはない、という事、びっくりです。・ペタゴウとは不思議、しかし奥深いものである。(女性 57)

3. デンマークの保育所と日本の保育所の違いが知れた。全然違うので驚いた。特に「お昼寝」をベビーカーなどです、というのにびっくりしました。朝食も出ることとか……「保育ママ」制度、日本にあれば、将来やってみたいと思った。今日はありがとうございました。(女性 40)

4. デンマーク方式の学習の仕方について学ばせていただきました。(男性 60)

5. 講義の途中でも質問できたので、考えをまとめやすかった。日本にとって使いやすい制度を選んで紹介できるのは、それだけ国内で議論をしあってきた歴史があるからだと思った。日本国内でもどんどん話し合ったらよい。大スクリーンで、デンマークと日本をカメラ電話でつないで、話し合えたらよい。日本ではサービス残業があったり、高齢者、障害者がかわいそう、大変だからと「可能な限り」が無視されやすい。ノーマリゼーションと共に「可能な限り」を広める必要があると思った。(女性 42)

・デンマークの看護師、ヘルパーの体の故障は多いか？(腰痛、メンタル等)職務上でのトラブルの対策は国でどんなことをするか？

勤務に起因する体の故障は皆無と言ってよいでしょう。デンマークでは自分で移動が困難な障がい者の寝室やトイレ、浴室にはリフトを設置します。介護者が障がい者を抱え起こすような行為は介護者の健康を害する行為として法律で禁止されています。

また医師、看護師、介護士、作業(理学)療法士などは、障がい者や患者の治療、介護等に携わるチームメイトであり、身分の上下関係は無いし互いの専門性を尊重しています。

・高齢者の通院は多いか？ 移動手段は車？

通院できる高齢者は通院しますが、無理な場合は市の在宅介護課などで綿密な訪問看護などを計

画し実行しています。通院と言っても普通は家庭医の所で、大学病院などは家庭医の紹介状が無いと行けません。移動手段は人さまざまです。

・デンマークにも車の免許返納があるか？ かわりにだれが運転するか？

返納は日本と同じで個人の問題です。ただし高齢者にはこれも日本と同様に認知・判断能力の検査が義務付けられています。誰かが代わりに運転するというような制度は(どこの国にも)ありません。

・高齢者や障害者が日常で使う移動手段は？

その人の状況によってさまざまです。私たちが昔訪問したBさんは重度の筋ジストロフィー患者でしたが介護用に改造した車を所有していました。24時間介護が必要なので、5人弱の介護者を雇っていました。雇用に要する費用は市がBさんに支給します。Bさんは求人募集をし、採用面接をし、自分とうまくやっていけそうな人を雇用し、賃金を支払います。車の運転は介護者がやります。なお、自宅のバリアフリー化、車の購入費用はほとんどを市が補助します。

・デンマークに認知症はあるか？ 火事、万引き等のトラブルは？

認知症は世界中どこの国にもあります。デンマークでは市の在宅介護課が、その人の状態に合った支援計画を作成し、看護師、介護士、療法士などによる訪問支援を行います。(デンマークでは老人ホームなどの施設は法律で廃止されているため、集合住宅などとしても高齢者は在宅介護です。)認知症が原因で火事とか万引きとかが社会問題になっていると聞いたことはありません。

6. 本日はありがとうございました。先生やペタゴウの離職率や休職率が気になりました。日本では学校の先生が休職される率が高いです。デンマークでは何か対応があるのでしょうか？

日本の先生の休職率、離職率が高い原因は第一に多忙なことがあります。一昨年(2017年)の文部科学省による実態調査で、中学校教諭の52%以上が週20時間以上の超過勤務をしています。大抵は不毛な報告書の作成とか不得手な部活動指導とかが内容です。そのため生徒と触れ合える時間はほとんど無いのに、本来家庭で保護者が担うべき躰まで要求されているのが実情です。授業やクラス経営で行き詰っても、同僚も多忙なことが分っているため、誰にも相談できず問題を独りで抱え込んで精神を病んでしまう人も多いです。

ご質問の方は、そういうことをご存じなのでデンマークの場合が気になったのだらうと思います。

しかし、デンマークでは週37時間労働で残業もありません。学校部活動もありません。学級定員も最大でも30人(大抵20人程度)、問題を抱えた生徒の指導に関しては職員が問題を共有しオープンに話し合い、解決を図ります。日本の場合のような離職、休職はまずありません。

7. 日本とは違いすぎる国のせいさく、仕組みにおどろく事ばかりであった。どうやっても食いはぐれる事ない形になっているし、日本でいわれるワーキングプア等という事はこの国ではありえないと思う。仕事に対するなやみも、もっとピュアに職業人として前向きに打開していけるのではと思うとうらやましい。私もどちらかという職人肌なので、若ければ、千葉さんのように単身飛び込んでみたい。(男性 38)

8. 自分の住んでいる 日本 1人1人が責任を持って考える事が 薄い と感じました。もっと人に関心を持って、あたりまえに支えあえる日本になってほしい。

9. 全く知らなかったデンマークの少しを知ることができました。となりのだれかのことを考えていきたい。

10. 保育ママはすごいと思いました。日本は待機児童が多い中、誰でも場所があればやれる事が。福祉も感動する事ばかりの話を聞いてよかったです。

11. デンマークの講義、講演、学習方法が日本とかなり違う様に思っ大変参考になりました。

12. 受講者が、常に分からないことは、すぐに質問したり、とデンマーク式の講義が新鮮でした。デンマークの知識はあまりなかったので、デンマークと日本の差に驚き、学べる事が沢山あると感じ、もっと知りたいと思いました。

13. 田村輝雄さん、本日は御案内ありがとうございました。デンマークは、アンデルセン位しか知らない国でしたが、本日は頭バンバンになる程吸収しました。……で、私達は今後何を知り、何をしたらいいのでしょうか？

14. 初回参加させて頂きました。とても難しい質問をされる方もおり、又、個人的には(そりゃ、人によるよね……)と思う質問もありました。ざっくばらんに質問をしたかったけど、質問しにくかった……これは日本の教育を受けた結果では？と思う。自分達の幸せの為、自分たちで勝ち取るため、希望は、小さなコミュニティでも発信し、行政→政府へ届けばと思います。

15. 外国にひかれて参加させて頂きました。格差の無い社会を作りたいです。(女性 66)

16. 「デンマークは世界一しあわせな国」と、よく聞いたことがありましたが、その理由が今日の講演を聞いて分かりました。特に魅力を感じたことは、「男女格差が小さいこと」。男性が家事・子育てに協力することや、女性の政治参加率が高いことなど、日本にはまだ程遠いものですが、徐々に取り入れていけると、より生活がしやすくなるのではないかと感じました。(女性 28)

17. デンマークを知るきっかけとなりました。デンマークのよいところを少しでもとり入れるためには日本の政治もデンマークの政治もよく学んで、そして声をあげる、または政治にもっと関心を持たなければ、と思いました。

掲載しきれなかった分は次号以降で掲載します。

(文責 茂木俊郎 回答監修 千葉忠夫)

2019 年度総会のお知らせ

NPO法人 日本・デンマーク生活研究所の 2019 年度総会を、次のように開催します。

日時:2019 年5月25日(土)14時~17時

会場:TKP東京駅丸の内会議室

カンファレンスルーム 4

(東京都千代田区丸の内 3-1-1 帝劇ビルB1F)

・JR線『有楽町駅』徒歩2分

・地下鉄『日比谷駅』『有楽町駅』B3 出口直結

同封のハガキにて出欠を5月15日までにお知らせください。欠席の場合は同ハガキの委任状に署名捺印して返送してください。

なお総会終了後帝劇ビル内の中華料理店「桂園」で懇親交流会を予定しております。会費は4000円(税込み)です。こちらの参加希望も同封ハガキに記入してください。

第 10 回 Weekend Folkehøjskole 開催地未定

8年間、9回にわたって開催してきた当法人主催の Weekend Folkehøjskole 研修塾の次回開催地は、残念ですがまだ定まっていません。協力していただける方、関心がおありの方、下記発行所の携帯電話までご連絡をいただければ幸いです。ショートメールか電話で結構ですのでよろしくお願い致します。

編集後記 ★沖縄の県民投票はヤマトンチュウに対して明確な辺野古ノーを示したのに、最初から無視して埋め立ては続行する方針だったと臆面もない政府。★それが沖縄に寄り添うということならば、「美しい日本を取り戻す」が米国の言いなりになることだというのもムベなるかな。★上が牽強付会に余念がなければ下々も之に倣うか。我が子を虐待して死に追いやり、躰だったと言ひ張る親。★とは言え、新聞の投書欄、歌壇にはこんな政治に憤り、こんな事件の犠牲者を悼み悲しみ嘆く人々の真心が溢れていた。★この国にもまだ希望はあるということだろう。(茂木)

発行所

〒292-0801

千葉県木更津市請西4-6-9

Tel & FAX : 0438-36-3565

お問合せ Tel : 090-9827-9262

茂木(もてき)俊郎

NPO法人ホームページ

<http://www.djsli.com>

メールマガジンの申し込みはホームページからお願いします。